第 23 回日本抗加齢医学会総会 東京



河河

新型コロナ外出自粛とアンチエイジング

機能年齢・酸化ストレス・抗加齢医学的指標に及ぼす影響について

医療法人アエバ会 アエバ外科病院 四ツ橋診療所 同志社大学大学院医学研究科アンエイジングセンター3

> 安井 米井嘉一3

【目的】新型コロナ外出自粛が機能年齢、酸化ストレスなどの抗加齢医学的指標に及ぼす影響 いて検討した。

【方法】対象は 2006 年 6 月から 2022 年 12 月の期間、当院でアンチエイジング(健康長寿・抗加 齢)ドックを受診した男性 204 名(平均年齢 66.6±13.5 歳)、女性 209 名(平均年齢 64.0±12.5 歳) の延べ総数 413 例である。筋年齢:WBI(体重支持指数)・握力、神経年齢:WCST、血管年齢:指尖加速 度脈波・高感度 CRP、ホルモン年齢(調整) DHEA-s・コルチゾール・DHEA-s/コルチゾール比等、 年齢:DEXA 法腰椎骨 密度・YAM%、酸化ストレス.外出自粛"あり"群と"なし"群に分類し機能年 齢、抗加齢的指標について比較解析した。

【結果】男性 15 名(平均年齢 69.7±4.7歳)、女性 18 名(平均年齢 66.6±3.5歳)計 33 名の外出自 粛"あり"群では筋年齢は 58.8±1.6歳("なし"群 48.9±0.5歳, OR=1.10, 95%CI, P<0.0001)で有 意に高かった. 血管年齢 60.7(61.4)歳、脳年齢 59.1(60.2)歳、ホルモン年齢 58.8(60.5)歳、骨年齢 49.9(50.0)歳で有意差は見られなかった。

WBI は 0.492±0.022(0.758±0.120, 0R=0.02, 95%CI, P<0.04) 有意に低かった。酸化ストレスは 8-OHdG は 16.00±24.6ng/kg/hr (8.21±6.83, P<0.001)、イソプラスタン生成速度 4.65±0.63 ng/kg/hr (2.20±0.21, P<0.003), CoQ10 酸化率 5.95±1.92(4.46±0.21, P<0.03) は有意に高かった。

【結語】新型コロナ感染対策の外出自粛は体重支持指数を低下させ筋年齢を老化させた。 また、遺伝子損傷度、酸化ストレス度を有意に増加させた。









